

# 麻薬探知犬の紹介

麻薬探知犬は、増大する不正薬物の密輸入を防止する目的で、昭和54(1979)年に米国税関の協力を得て導入したのが始まりです。令和4(2022)年12月までに合計603頭の麻薬探知犬が活躍してきましたが、ここでは、各税関における代表的な1頭を紹介します。

平成31(2019)年3月、中部空港で大麻の密輸入を阻止。サッカー選手の本田圭佑氏が「ケイスケ号 グッジョブ!w」とSNSでコメントしてくれました。

名前の由来：世界で活躍するサッカー選手「本田圭佑」氏から引用。

エル号は、雷の音で餌が食べられない臆病な一面がありましたが、神戸税関歴代トップの摘発件数を誇り大いに活躍しました。

好奇心旺盛なクエスト号は、旅客が身边に巧妙に隠して持ち込んだ覚醒剤を摘発した優秀な麻薬探知犬です!

門司税関  
クエスト号 (退役犬)

神戸税関  
エル号 (退役犬)

長崎税関  
ニック号 (現役犬)

洗い顔が特徴のニック号!元気いっぱいの頑張り屋さんで、不正薬物の摘発に貢献しています。

沖縄地区税関  
エディ号 (退役犬)

エディ号は常に元気で遊びたいという気持ちが強く、好奇心旺盛な性格。沖縄の歴代麻薬探知犬の中で摘発件数 No.1!



ソーン号は他税関への派遣検査で環境変化にも臆することなく不正薬物の摘発に貢献し、現在は新千歳空港にて活躍中です。

麻薬探知犬に認定された全国のゴールデンレトリバーの中でアン号は摘発数第1位。優秀で愛嬌がある犬でした。

ペッパー号は爆発的な検査意欲を持ち、夢中で麻薬の匂いを探して横浜税関歴代 No.1 の摘発件数を誇ります!

デビューから約1年、不正薬物の摘発実績もあり、関西空港を中心に活躍している将来有望な麻薬探知犬のマンゴー号です。

## 麻薬探知犬とハンドラー

麻薬探知犬とペアを組んで検査を行う税関職員のことを「ハンドラー」と呼んでいます。ハンドラーになるために特別な資格は必要ありません。不正薬物を探し出すためには、担当する麻薬探知犬との信頼関係が大切です。

### 【ハンドラーの1日】

ハンドラーは、現場で麻薬探知犬とともに検査を行うほか、毎日、犬の健康状態に留意し健康管理にも努めています。



犬の散歩



グルーミング



健康管理



給餌



検査



検査出動

## 職員インタビュー

歴代税関職員の中で、最も長く麻薬探知犬業務に携わってきた東京税関監視部麻薬探知犬訓練センター室の菊地室長に印象に残っているエピソードを聞きました!

税関に入って2年目の昭和63(1988)年7月に麻薬探知犬を担当する部署へ異動となり、最初に訓練を担当したのはベラ号というメスのラブラドルでした。ベラ号はダミー(タオルを棒状に巻いたもの)での遊びが大好きで、獲得すると唸るほど強気だったのですが、普段は、ドアが閉まる音や段ボール箱が少し動くだけで怖がる臆病な犬でした。

訓練期間を延長して何とか麻薬探知犬としてデビューすることができましたが、臆病さは克服できず、平成2(1990)年に初めての出張で訪れた山口県にある岐山小学校(現在の山口県周南市立岐山小学校)でのデモンストレーションでは、子供たちの声援に驚き、ステージから逃げ出してしまったこともありました。

「この犬ダメだな」と半ば諦めかけていましたが、先輩からのアドバイスも参考に、犬が大好きなダミー遊びの時に箱に投げ入れてみると、箱がひっくり返るのも気にせず、夢中でダミーを獲得することができました。それからは、ベラ号がどうすれば夢中になるか、楽しくワクワクさせられるかを考え訓練をするようになると、怖がることも少なくなり、ついには空港での検査で摘発することができました。それを機に麻薬探知犬の育成業務にどっぷりとはまり、いまだにどうすれば犬がワクワクするかを考えて日々過ごしています。



菊地室長と麻薬探知犬ベラ号

菊地 昭洋(きくち あきひろ)  
昭和61年東京税関採用  
昭和63年にハンドラーとして麻薬探知犬業務に初めて携わり、経歴37年のうち26年が麻薬探知犬業務。主に育成業務を担当し、約1,000頭の訓練に携わり、約350頭を麻薬探知犬として送り出している。